



ユーロ／ドル相場は 絶好の押し目到来？

～ギャン理論から見た通貨～
ギャンアナリスト 中原 駿

【月足サイクル】

これは通貨全般に適用されるかも知れないが、ユーロ／ドル相場には16年サイクルが存在する。この相場の起点は2000年10月。今月はここから丁度17年目。1月に1.0341まで下落しており、ここがボトムであったかも知れない。ただオーブ（許容範囲）も含めると、この相場は2018年までボトムをつける可能性が残されている。そこで更に細かくサイクルを見る必要がある。

この相場は恐らく4.3年サイクル4つで構成されている。このサイクルは17ヶ月サイクルの2倍である33か月サイクルと26ヶ月サイクルで形成されているので、混合型かつ複雑であるためトレードしやすい通貨ではない。ただ、2015年3月に3つ目のサイクルがボトムをつけた。現在4つ目にして最後の4年サイクルに入っているか、短縮されて今年の1月につけたかも知れない。後者であればかなりの強気になるが、前者であればボトム形成時に向けて大きく下げる。ただ、仮にそうであっても中期的には強くなる可能性を現行相場は秘めている。そのカギは4.3年サイクルのサブサイクルに隠されている。

2010年6月からの4.3年サイクルは、2つの26か月サイクルからなり、第1-26か月サイクルは25か月で完了した。第2-26か月サイクルは32か月で2015年3月に完了した。ここを起点とした新4.3年及び第1-26か月サイクルは22か月後の2017年1月3日の1.0341でボトムアウトした。このサイクルのレンジは通常22～30か月なので日柄要件はクリアしている。

従って、今月は第2-26か月サイクルの9か月目に入っており、サイクル的に上昇局面に入っている。過去の第2サイクルの上昇期間は起点から13～22か月であり相当期間上昇する。また想定される値幅は安値から0.1950～0.2815とかなり雄大。加えて現行相場は2000年10月を起点とした長期16年サイクルが今年で17年目に入っており、上記1月安値で長期サイクルボトムをつけたとなると、更に雄大な相場となる可能性があるのだ。



【週足サイクル】

26か月サイクルは、3つの9か月サイクル（レンジ7～11か月）で構成される事が多く、通常第3位相以外では歪まない。現在は第1位相で、ボトムが形成される時間帯に入っている。

更に9か月サイクルは、週足に換算すると35週サイクル（28～42週）で構成される。トレードの基本（プライマリー）となるプライマリーサイクル（PC）はこの35週サイクルの半分、即ち17週（14～20）と筆者は定義している。あるいは、より細かく10週サイクル（9～11週）3つで構成されるか、場合によっては、その混合パターンになる事もある。

現行35週サイクルがPC2つで構成されているのであれば、第1PCは通常の日柄よりも4週長い6月20日の1.1117でボトムをつけ、今週はここから第2PCの18週目に入っている。その一方で、このPCは6月安値から16週目にあたる10月6

日に1.1669まで下落後反発した。従ってここでPCボトムをつけ、第2-35週（9か月）サイクルが始まっているかも知れない。もしそうであれば、ここから爆発的に上昇しよう。

【季節性】

2016年は前半ユーロ高、後半ユーロ安と季節性の逆となった。通常は年前半ユーロ安、後半ユーロ高。80年以降に限っても、80年は1～4月まで、81年は3～8月まで、82年は前年10月から4月まで、83年も1～8月まで、いずれもドルが力強い上昇を見せている。90年代においても、91年は2月安値、7月高値であり、92年は1～3月まで上昇。95年も3月から上昇をスタートしている。一般的にいつて、前年10月から3月まではドルの底値圏（ユーロは高値圏）となるケースが多く、逆に7月前後はドルのトップとなる季節性が観測される。実際、2012年も2月末までドル安、その後、7月第4週までは対ユーロでドル高が継続し、その後は緩やかなユーロ高だった。

7月前後がドルトップ（ユーロボトム）となった年は、81年8月、83年8月、87年8月、88年8月、89年6月、90年6月、91年7月、93年7月、95年9月、96年5月、97年8月、2001年7月、2003年8月、2004年8月、2010年7月、2012年7月、2013年7月（正確には4月だがほぼダブルボトムとみなしてよい）である。80年以降の30年において17回も7月前後が高値をつける時間帯となっている。これにダウンサイクルが強く、3月前後に高値をつけたものが80年、86年、90年、92年、94年、98年、12年と7回観察される事から、年前半に高値をつける傾向は82%ということがいえる。

逆に夏場から冬にかけて伝統的にドルは弱い（ユーロは強い）傾向が見て取れる。年後半にドルが反騰したのは80年、83年、84年、92年、93年、99年、2000年、2005年と8回を数えるのみである。もっとも2000年は10月から大きくユーロが反騰しているのでドルが一時的に上がった印象はないし、2005年の下落は2006年の大反騰を招いている。

【アニバーサリー】

10月末から12月までの期間で、2012年からの重要な時間帯（アニバーサリー）を記す。この内、去年のアニバーサリーは太字で記した。この時間帯は強い反転が期待出来る日柄と言える。

10月25日、10月24日、11月7日、11月9日、11月13日、11月15日、11月19日、11月24日、11月25～27日、12月3日、12月5日、12月7日、12月8日、12月15～19日、12月26～31日。

【結論】

長期サイクルの結論を出すのは難しいが、恐らく2015年3月から新4.3年サイクルに突入しているとするのが素直であろう。

スタートの価格は割れているので、このサイクルは弱気である可能性が高い。2つの26か月と33か月サイクルを合成するとしても、第一サイクルはどうやら26か月サイクルのようだ。

前26か月サイクルは22か月目の17年1月で完了、現在新サイクル入りしている。過去の第2-26か月サイクルの上昇期間は13～22か月であり、中期的にはまだ日柄的に上昇余地がある。想定される値幅は1月安値から0.1950～0.2815とかなり雄大。加えて、現行相場は10月6日の安値で第2PC、ならびに第1-35週サイクルのボトムをつけた可能性がある。

仮にそうでなかったとしても、目先はボトムをつけるタイミングに入っている。11月7日、もしくは11月9日付近のアニバーサリーでの押し目は、買いを推奨したい。ここは現行PCの起点から20週目にあたる。

ガテクニカル 次は25年ぶりの高値へ

日経平均株は先週も続伸、一時21500円台を付けた。紆余曲折あったが、兼ねてからの目標値21,400±250を達成した。選挙前の執筆になるが、自民圧勝を前倒して買って来たような相場とも見える。来週はもし選挙後の材料出尽くしで売られたところがあれば、また買い場になると見る。

先週も述べたが「トレンドが発生した時の相場は、シンプルに移動平均(MA)だけを見ておけば良い。複雑なオシレータ分析は必要ない。特に、長期サイクルが上昇期の時は有効だ」。現在の中期トレンドは20週MA(20,083)が有効。上回っている限り全ての押し目は買いになる。しかしそこまで維持できない短期投資家は20,788以下の引け値にストップを置いてロングを維持。これは直近のギャップアップゾーンでもあり、現在は上抜けた上昇ウェッジの上限ラインにもあたる。

20週前後のサイクルは今週、7週目。先週も述べた通り、まだ天井をつける時間帯ではない。先週次の通り述べた「中長期はプライマリーサイクルベースから依然として天井はまだ

先、恐らく11月中旬頃になると予想されるので、それまでの全ての押し目は9月のギャップを埋めるまで買い方針を継続したい」。最低でも20,788を下に来るまではロングを維持したい。次は96年6月高値22,750が目標、実に1992年以来、25年ぶりの高値となろう。



今週の押し 2重のネックライン

先週も日米株式は上昇。上昇慣れが危惧される。ただ実感の有無は別として、経済指標も雇用も好調なら、株価は上がって然るべき。買えない相場は強いとは良く言ったものである。しかし日経平均株価に関しては、9月8日の安値から6週連続上伸。選挙の結果がどうであれ、いったん押す場面がやって来てもおかしくない日柄。警戒しなければならない時間帯と見る。

そんな中、株式以外の主要金融市場は、ドル/円相場が3カ月ぶりの水準まで戻している以外、中途半端な印象がある。米国では税制改革や次期FRB議長選出問題、日本では総選挙という不確定要因があり、主要相場は上下どちらにでも動けるような線形になっているように見えるのは筆者だけであろうか。

現在、買い方針のユーロ/ドル相場も前週に23日移動平均まで上昇後は、9月8日の高値を頭にした大小2つの三尊天井と見られる線形のネックライン間で、保合い放れ待ちの状態だ。

従って、先週指摘したこの見方は依然有効である。即ち“…相場は8月末からの三尊天井ネックラインを試しにかかっている。これを上回るようなら、1月3日の安値に起因するトレンドラインを用いてもう一本のチャネルラインを9月高値に引き、ここを目先の上値目標としたい。逆にこのネックライン突破に失敗した場合は先週予測した（8月、10月安値を結ぶ）もう1つの三尊天井ネックラインを試しにかかるだろう。ここで維持できれば再度反騰。維持できなければしばらく下げ基調か”。

現行相場はここで述べた1月安値に起因するチャネルラインの第一、第二上限が強力なサポートラインとして機能しており、8月—10月安値ネックラインはこのエリア内に位置している。従って下値は存外固いのではないかと筆者は予測する。

一方、先週18日に相場は1.1730まで下落後反発。ここは第二上限であったことから、10月6日の安値を頭に、9月27日の安値を左肩、先週18日の安値を右肩に逆三尊が形成されている可能性がある。1.1880～1.1890付近にある2重のネックラインを超えると、相場は急伸するのではないかと筆者は予測する。

今週の主な予定・経済統計

10月23日(月)

・安倍首相記者会見

10月24日(火)

・中国共産党大会閉幕 ・米2年債入札(260億ドル)

10月25日(水)

・米5年債入札(340億ドル)
・9月の米新築住宅販売件数(55.0万戸の予想、前月は56.0万戸)
・9月の米耐久財受注(前月比1.3%の増加予想、前月は2%増加)
・10月の独Ifo景況感指数(115.0の予想、前月は115.2)

10月26日(木)

・ECB政策金利発表、ドラギ総裁記者会見
・9月の米中古住宅販売成約指数(前月比0.3%の増加予想、前月は2.6%減少)
・米週間新規失業保険申請件数(前週は22.2万件)
・米7年債入札(280億ドル：入札合計は880億ドル規模)
・9月の米卸売在庫

10月27日(金)

・17年第3四半期の米実質GDP、及び個人消費の速報値
・10月の米ミシガン大学消費者信頼感指数・確定値(101.0の予想)
・9月の日本雇用統計・消費者物価指数

10月28日(土)…上弦

・アイルランド総選挙

*欧米市場は10月29日から夏時間終了。冬時間に移行します。



今週の相場風林語録

無材料の大相場【2】

何かがある。相場はそのことを先知していると思う。人々は材料がないから軽視して売り向かったり、買い向かうから、材料が表面に出た時は大騒動になる。

今週の**九星★波動**

南雲 紫蘭

はしゃぎすぎ？

一連のスクandalと希望の党が台風の嵐になるか、と思われた衆院選ですが、序盤戦の予測では与党圧勝で溢れています。

日経新聞や共同通信は、自民党が過半数の233議席を大きく上回ると予想。日経は260人が優勢になっているといいます。

一方、政権選択を訴え、過半数の235人を擁立した希望の党は、公示前の57人から大きく伸びず、60議席前後。公示前に16議席だった立憲民主党は、倍増の勢いといいます。読売新聞は40議席台を確保し、自民、希望に続く第3党に躍進する可能性があるとのこと。安倍政権に批判的な有権者の受け皿になっている構図が、今回の調査で浮かび上がっているようです。はっきりと安倍政権と対峙しているのは「立憲民主党のみ」という感覚かも知れません。全般的に自民党が289の小選挙区で優位に立っているのが特徴、一方、希望の党は、小池百合子代表が知事を務める東京で苦戦とのことでした。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (417)

中原 駿

ジェイムスは上野を確認すると、派手にお辞儀をして見せた。

日本人風で、ある意味馬鹿にしているように感じるこうした態度も、ジェイムスの嫌味な点でもあった。

ジェイムスは日本の銀行のほかにも、欧州系、豪州系の大手を担当しており、上野の銀行あたりでは資金面ではそこそこ大きい相手であっても、オフバランスやオプションではまだまだ小さい部類だったのだ。

そして、オフバランスやオプションこそが、この当時もっとも儲かる取引だった。

だからジェイムスの態度はわからないでもなかったが、当時の上野のヴォリュームと地位ならば怒ることも出来た。

第六感の 金のフラクタル追跡



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

一部利食い、残りはトレーリングストップを設定

ドル円相場は10月16日に111円64まで下落した後、週末は113円台に反騰。10月6日の高値をうかがう展開となっている。

先週の戦略は「111円を下回る引け値にストップを置き、次の修正安目標値111円50±0.26のレベルがあれば余裕のある投資家は112円台に続き、さらに買い増しを狙う」。113円台は一部利食いしておきたい。

前回は「ラウンドトップ気味に下げに入った。この時点で過去2回のサブサイクルトップに届かず、調整に入っているが、引け値で111円を維持できれば、再度の上昇で高値を更新、114円台を狙う動きになると見ている」と述べたが、114円台は可能であるが、サブサイクルの日柄が関係してくる。

また、米韓軍事演習中の北朝鮮のミサイル実験も警戒されるころだ。ただ、このケースでは下げたところは買いになるだろう。

7～11週サブサイクルは今週、7週目に入る。トップアウトを警戒すべき時間帯入っている。ただこのサイクルは極めて稀に6週目で短縮ボトムを付けるケースがある。特に前回は12週に延長されたサイクル故、その可能性はある。その場合、先週の安値がボトムになりえるが、営業日ベースでは26日目であった。これはやはり短すぎると考える。最低でも30

しかしこんなに安易でいいのでしょうか。選挙戦の序盤では、有権者の3割から4割が、投票する候補者を決めていませんし、今後若者が動き出せばいかようにも状況は変わるでしょう。

筆者は想定外の苦戦もあり得ると想定しており、その意味では株式市場は「はしゃぎすぎ」に見えてなりません。



それでも、上野は今日は我慢することに決めた。

いや、我慢する必要があった。今から上野が行うのは、人生においても最も重要な演技だったからだ。

上野は少々わざとらしい笑顔を浮かべて、ジェイムスに近づき、握手を求めた。

そして、「今日はありがとう。感謝する」と述べた。

ジェイムスはわざとらしく大きく両手を上げて「いや、んでもない。こんなことでよければいつでも」と述べた。

「上野さん、今日はワン・メン・メンが待ってます」。

ワン・メン・メン。その名前はこの当時でも伝説的であった。

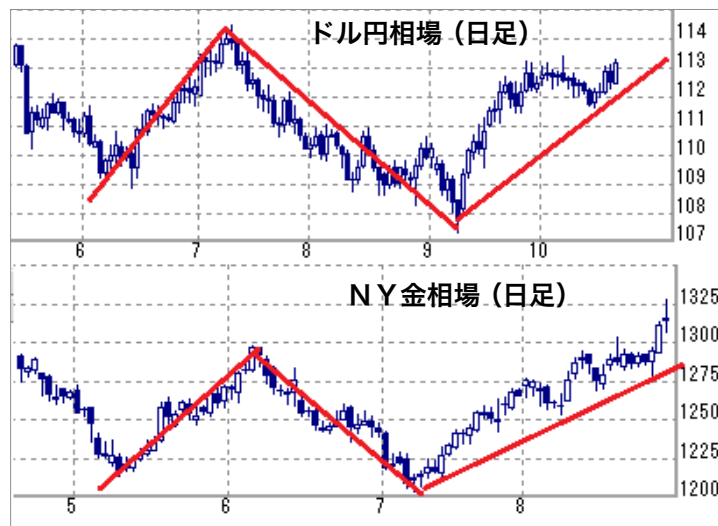
グットバイがシンガポールに進出した時、現地のパートナーを探したのだが、その当時独立した現地資本のブローカーを創業し率いていたのがワン・メン・メンだったからだ。

いわば、立志伝の人物だったのだ。

～31営業日は欲しいところだ。

しかし、ボトムを付けていたなら、この相場は115円以上に向かう。また、今週が7週目なら、間もなくトップアウトしてボトムに向けた下げに入る。

現在は判断に迷うところだが、結論として、以前紹介した金のフラクタルを参考に、上値を追うことにする。サブサイクルがまだボトムを付けていなければ、今週にも反転下落する恐れがあるので、ストップを浅めにとっておきたい。112.10以下の引け値に設定したい。10月6日高値を更新して続伸する場合、ストップを引き上げていけば良い(トレーリングストップ)。それは例えば28日移動平均を引け値で下回った場合とする。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第62回】NY金のサイクルについて (8)

2015年12月の安値を起点に、現行相場は22.5年サイクルにおける第3（最終）7.4年サイクルの第1位相、つまり最初の34カ月サイクルに入っている、という話を前回解説しました。今回は、34カ月サイクルのサブサイクルについて解説します。

第2-7.4年サイクルを細かく見ると、34カ月サイクルは3つの11カ月サイクルに分割されます。このサイクルは、毎月発行されているMMAサイクルズレポートの最新号でも注目されている目下重要な月足サイクル。レンジは9~14カ月です。実際2008年10月から2015年12月の相場をこのサイクルを中心に見ると、最初のサイクル以外全て上記のレンジに収まっています。本来なら 32.5 ± 5 カ月の日柄を要する第3（最終）34カ月サイクルは13カ月の第一位相のみで終了しました。往々にして、長期サイクルがボトムをつける際の最終位相は日柄が歪むのですが、正直ここまで短縮されるとは思いませんでした。

ただ、サイクルの序盤は強気で、日柄もあまり歪みません（もともと2008年10月からの第一位相は2カ月延長しましたが）。これを踏まえて、現行34カ月サイクルを見てみましょう。

メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

今週は流れが変わる週？

当欄執筆時、衆議院選挙の結果は判っていない。日経平均株価は先週も上昇した。地合の強さもさる事ながら、やはり官製相場の側面もあると思う。株価が強い時は、与党が強い。ただ星回りの、先週末までの上昇と現在の世情に筆者は懐疑的だ。何故なら先週末は“ハブニング”の星、天王星の週であったからだ。

先週の日経平均の高値は19日の21,503。先週の当欄についてこう述べていた“…19日（日本時間20日）は新月、即ち太陽と月がコンジャンクション（0度）を形成するのだが、同日は両惑星が天王星とそれぞれオポジションの関係になる。満月や新月、上弦、下弦は相場の節目をつけやすいとされるが、ここに天王星が加わってハードアスペクト（0度、90度、180度）が形成される…”。また最新のMMA日経週報でも、この時間帯についてこのように指摘している「これはジオコスミック的には“破壊的（disruptive）”な原動力となる。例えば、地震、ハリケーン、強風のどれか（あるいはこれら全て）と往々にして

起点からちょうど1年目の2016年12月に相場は34カ月移動平均を割り込み1,124.30まで下落。現在の上昇基調はここのので、この安値が第一位相であったと思われます。従って、今月は第二位相の10カ月目です。歪みが生じなければ、今後4カ月以内に現行11カ月サイクルはボトムをつけるでしょう。

最新版のMMAサイクルズレポートでは、9月8日の高値がこのサイクルの天井であったのか。そして、ボトムはどのあたりでつけるのか、それとも10月6日の安値でつけたのか、という点についての検証が行われています。

これについては、次週の週足サイクルで解説するつもりです。



合致しやすい。また、この天体サインはレベル1（最強）のシグナルではないものの（レベル3）、金融市場の反転とも往々にして関連しやすい。因みにこの時間帯で日本に台風が接近する。

更に日本時間23日は火星と太陽がサインチェンジする。また翌24日からは太陽中心のホロスコープで見た射手座サインに水星が入居する（ヘリオ射手座ファクター）。これに関しては先週“この時間帯は金やユーロにとって大きな上下変動の特異日とされる。上げにせよ、下げにせよファクター開始日から4営業日前から相場は反転し、中間点付近（10月30日付近）、もしくはファクター終了日（今回なら11月3日付近）で再反転するケースがこれまで多く見られた”と述べた。

以上を総合すると、今週は先週末の新月・天王星オポジションによる“サプライズ”の影響を受け、市場や政治に関する見方が惑星サインチェンジによって変転すると予想。これにより株式は反転急落、金やユーロは反騰の流れに変わるのではないかと。

ただし、日本時間今週末27日は太陽・木星コンジャンクション、翌28日は上弦と金星・冥王星スクエアが発生し、ヘリオ射手座ファクター中間点なので、ここの節目として注意したい。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- 10月23日（月） 先週と今週で気が入れ変わる
- 10月24日（火） 最低5日間のトレンド発生
- 10月25日（水） ギャップ発生時は順張りでの対処
- 10月26日（木） 高値を買う、安値を売る
- 10月27日（金） 小休止 利食い千人力
- 10月28日（土） 長期トレンドの終了時は
少なくとも2回の逃げ場がある
- 10月29日（日） 神様は欲深きものを嫌う

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた

「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす

◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！

◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー

代表取締役社長

足立 眞一 著

発行：開拓社 定価：1,296円（税込み）

フォーキャストのその先へ 2017年ファイナル

【2017年 秋季勉強会】 — 来年に向け、如何に儲けるか —

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。今年最後の勉強会では、これまでにお伝えできなかった事象も含め、従来よりも2倍「有用」にして「重要」な内容を皆様にお伝えします！

講師	日時
＜第1部＞ マーケットクロスオーバー Vol.2 金融経済アナリスト 神成 厚至	10月28日（土）13:00～17:00
＜第2部＞ 年後半の儲けの機会を探る	貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階
株式会社投資日報社 代表取締役 楠木 高明	参加費 ＜懇親会なし＞14,040円（税込） ＜懇親会あり＞18,040円（税込） ※お振込み手数料等はお客様負担となります。

■ 詳細・お申し込みはこちらから
(株) 投資日報社 電話：03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <セミナー>内【2017年秋季勉強会】より申し込みください